

横須賀再興プラン

2026-2029

誰も一人にさせないまちへ





横須賀再興プラン

行政の使命

行政の最大の役割は、広義の意味での「福祉の充実」です。これまでもこれからも、実施する施策は全てこの目的のためにあります。

再興プランで目指すまちづくり

横須賀市ではその特性である「海洋都市」、「音楽・スポーツ・エンターテインメント都市」、「個性ある地域コミュニティのある都市」の3つのグランドデザインのもと、政策を進めてきました。

今回、これまで実施してきた施策をさらに前進させる

ため、「子育て・教育環境の再興」「地域で支え合う健康と福祉のまちの再興」「経済・産業と観光によるにぎわいの再興」「安全・安心ですっと住み続けたいまち」「未来につなぐ環境の保全と創出」の5つを最重点施策の柱とした新たな再興プランを策定しました。

「住んで良かった」と思っていたいただけるまちに

横須賀はこの8年間で大きく変わりました。2024年には観光客数が1,000万人を超え過去最高となり、2025年の社会動態は、ファミリー層の転入超過が進むなど、今、横須賀は大きく変わってきています。



「第二の開国」と位置付ける浦賀の再開発や、中央駅前の再開発など、さまざまなビッグプロジェクトも動き始めました。社会経済情勢がめまぐるしく変わる変転の時代にあっても、この流れを決して止めることなく、常に挑戦し続け、誰もが「住み続けたい」「住んでいて良かった」と心から思っていただけのようなまちづくりを進めてまいります。

「誰も一人にさせないまち」の実現を目指して

そして、横須賀に住む全ての方が多様性を認め合い、互いに支え合い、慈しみ合う「誰も一人にさせないまち」の実現を目指します。



横須賀市長

上地克明

contents

- 04 実績
- 05 目指すまちづくり
- 08 最重点施策
- 09 子育て・教育 1
- 10 子育て・教育 2
- 11 子育て・教育 3
- 12 健康・福祉 1
- 13 健康・福祉 2
- 14 経済・観光 1
- 15 経済・観光 2
- 16 安全・安心
- 17 環境
- 18 行政運営
- 19 結び

横須賀市のこれまで
(2018-2025)

2018年 終活登録スタート

2019年 中学生向けピロリ菌検査導入

2020年 福祉の総合相談窓口開設

2021年 中学校完全給食開始

2023年 小児医療費無償の
対象年齢を拡大

2024年 がん患者のウィッグ購入の
補助開始

2025年

市立総合医療センター開院

放課後子ども教室の全校設置完了

健康データ解析でリスク予測と
アプローチを開始

保育定員を拡充

障害者雇用の機会拡大

若年がん患者への支援拡充

「住んで良かった」を次世代へ

だれもが自分らしく暮らせるまちへ

横須賀市は、誰もが自分らしく安心して暮らせるまちを目指し、「福祉の充実」をまちづくりの柱に据えて取り組んできました。小児医療費の無償化や多様な相談場所の拡充など、子育て・健康医療・福祉の基盤を着実に強化しています。こうした積み重ねは、まちの魅力にもつながり、2024年には観光客数が過去最高の1,000万人を記録。近年は子育て世帯を中心に、転入が転出を上回る状況が続いています。

横須賀は「住み続けたい」「選ばれる」まちへと、確かな変化の途上にあります。このにぎわいと誇りを次世代へつなぐため、本年度から4年間の事業計画「再興プラン」を策定。浦賀地区の活性化や大矢部みどりの公園整備など、歴史と自然と暮らしの魅力を生かした事業を進め、誰もが「住んでよかった」と実感できる横須賀を目指します。

横須賀で暮らす誰もが多様性を認め合い、互いに支え合い、慈しみ合う「誰も一人にさせないまち」へ

これから 2026~2029年 福祉のさらなる充実を実現

目指すまちづくり

横須賀ならではの強みを最大限に生かすため、
3つのグランドデザインを基に、これまでまちづくりを進めて
きました。

個性であり他には類をみない特長を引き続き生かして、
市民が誇れるまちの実現を目指します。



音楽・スポーツ・ エンターテイメント都市

日常に「にぎわい」を創出、未来に
希望を抱けるまちづくり



海洋都市

魅力と可能性に満ちた「海」を
最大限に活用したまちづくり



個性ある地域コミュニティのある都市

支え合いの風土、谷戸や高台などの
地形を生かしたまちづくり

浦賀、第二の開国へ

世界へのゲートウェイへ
2029年以降、順次完成予定

東京湾の玄関口に位置し、ペリー来航の地であり、造船拠点として日本の近代化を支え、発展してきた浦賀。2021年に住友重機械工業株式会社から浦賀ドック周辺の土地が市に譲渡され、新たなまちづくりが始まっています。市はインデックス株式会社ら17社のパートナーと共に、歴史を受け継ぎながら、世界に開かれた「第三の開国」への新たな一歩を踏み出します。



大矢部、横須賀のルーツを 感じる拠点へ

祈りのテラス

農ライフバレー

大屋根広場

芝生広場

大矢部みどりの公園 2028年4月開園予定

平安時代末期から鎌倉時代に活躍した三浦一族発祥の地、横須賀。市の中央部に位置し、東京ドーム約4個分の面積を有する大矢部弾薬跡地は、1939年に国有地となり、2003年まで自衛隊の弾薬庫として使用されました。豊かな自然と三浦一族ゆかりの歴史的資産を活用するため、市は株式会社日比谷花壇ら8社と連携を開始。市民交流や防災機能も備えた、人・自然・歴史がつながる都市公園に生まれ変わり、開園後は市の所有地となる予定です。

大矢部

横須賀のルーツ
三浦一族

衣笠を本拠地として
鎌倉幕府の創設に
尽力

より充実させていく「5つの柱」

福祉と経済の好循環を図り、1つ1つの取り組みを着実に前に進めることで、人や投資を呼び込み、まちの活力を高め、地域の誇りの醸成につなげます。



安心して産み、育てられるまちへ

少子化や共働き世帯の増加など、多様化するニーズに対応し、保護者が「横須賀で子育てを続けたい」と実感できる環境を整えます。



出産・子育て応援祝い金

国の支援に市独自で10万円を上乗せ。経済的な不安を緩和。



産後ケア予約のデジタル化

スマホで予約を簡単に。必要なサポートを利用しやすく。



公立保育園の リニューアル

南こども園に続き、西・北こども園も整備。医療的ケア児の受入も拡大。



5歳児健診スタート

発達の特徴を早期に発見し、切れ目ない支援体制を強化。

子どもが健やかに育つまちへ

これまで整えてきた、保育・教育環境をより充実させ、子どもの居場所や魅力ある学びの環境づくりなどを進めます。



全天候型遊び場の整備

雨の日や暑い日でも、安心して遊べる場所づくりを推進。



放課後と夏休みの居場所づくり

放課後子ども教室の利用時間延長のほか、サマークラブを拡大。



中学生以下へ無料開放

市の運動施設を、利用負担なしで使えるように。



学校応援制度の創設

ふるさと納税を通じて、学校を応援。

「生き抜く力」を育む、教育改革

ICTを活用して、学びの質の向上に加え、教員が児童生徒に向き合う時間の確保を目指します。
学校で快適に過ごせるよう、環境整備にも取り組みます。



教育DX

生成AIの活用や電子黒板の導入で、きめ細やかな支援と学びの質向上へ。



誰も一人にさせない 学校づくり

不登校などで教室に入ることが難しい子どもの居場所や学びを支援。



快適で安全な環境

エアコンを全校へ整備し、
トイレの洋式化も推進。



ICTを取り入れた
授業を各校で展開。
より深い学びの推進に。

人生100年時代、いつまでも自分らしく健康に

これまでの取り組みを基盤として、テクノロジーの活用をさらに進め、一人一人の状況に応じたきめ細やかな支援を推進します。



データヘルス

分析対象者拡大で、リスクを早期発見し、支援を強化。



がん対策

乳がん・子宮頸がん検診の無料対象を拡大。



医療・看護人材育成拠点

市立看護系大学新設で、地域医療を担う人材を確保。



必要ときに、必要な支援へ確実につながる仕組みづくりへ。

住み慣れた地域で、安心の暮らしを

支援を必要とする人と、それを支える側のバランスを保ち、暮らしの課題解決に取り組みます。



障害福祉の充実

障害のある人と介護施設や人材を双方支援。



高齢者福祉の充実

認知症予防を生成AIで推進。介護人材の確保と持続可能な体制へ。



コミュニティの充実・強化

町内会・自治会のデジタル化を推進。市の窓口のDX化も。



人と人のつながりをより強め、支え合う力の向上へ。

音楽・スポーツ・エンターテインメントで、心躍る都市へ

浦賀駅前周辺地区の活性化や、「大矢部みどりの公園」整備などをはじめとしたプロジェクトを進め、まちの魅力をさらに高めます。



新たなまちづくり

浦賀駅前に加え、追浜・中央・久里浜駅周辺の再開発で、まちに活力を。



魅力的なスポット

大矢部のほか三笠公園リニューアルなど、集客・交流を推進。



音楽・スポーツの聖地

地域に根付く音楽とスポーツの力で、にぎわいを創出。



大河ドラマ

近代化の舞台・横須賀を全国へ発信。

地域経済の好循環を創出

市内経済を支える中小企業への支援を充実させるほか、農水産業の振興を進めます。



中小企業・雇用

職場環境整備と採用支援で人材確保を後押し。キャリアアップ支援も。



ふるさと納税

地域資源のさらなる発信で、ふるさと納税の寄附額拡大へ。



物流拠点機能

横須賀港のふ頭整備に加え、ポートセールスを推進。



農水産業

よこすか野菜のブランド力向上のほか、持続可能な漁業へ向けた支援も。

命を守る防災体制

能登半島地震を教訓に、孤立しやすい半島ならではのリスクに備えます。
三浦半島4市1町や企業とも連携し、横須賀だけでなく半島全体の防災力を高めます。



「道路寸断」への備え

ヘリコプター臨時離着陸場の整備で災害時の物資受け入れ・配送をスムーズに。



避難所環境の向上

備蓄物資の増強のほか、避難所となる全ての体育館にエアコン設置。



三浦半島4市1町連携

広域での課題を可視化し、防災体制を強化。



自助・共助・公助が連携した防災体制を一層高め、安全・安心なまちづくりへ。

横須賀の豊かな自然を、次の世代へ手渡すために

市民一人一人が、環境問題を「自分ごと」として捉え、横須賀の豊かな自然環境を守るための意識啓発を図ります。



ゼロカーボンシティ

公共施設における再生可能エネルギーの自家消費を推進。災害時には電力の確保手段としても。



環境意識の向上

環境情報を一体的に発信。身近な環境を学ぶ機会も。



みどりの保全

市街化区域のみどりの保全を推進。



海・山・里山などの自然環境を守り育て、次世代へ。

デジタルで効率化 生み出した時間を人へ還元

人にしかできない業務により注力し、市民に向き合い、提供するサービスの向上と迅速な課題解決を図ります。



スマート市役所

ICTツールや生成AIでサービス向上。



利便性向上

支払いのキャッシュレス化や休日開庁を推進。



経営視点

市の施策をより認知してもらう発信強化とコスト意識の徹底で、持続可能な市役所運営へ。



ICTや生成AIの活用により、増大する行政需要への確に対応。

「住み続けたい」まちへ

子育て・教育、暮らしの安心、まちのにぎわい、環境や防災など、日々の生活に関わる取り組みを、1つずつ進めていきます。

「住んでよかった」と誰もが実感できるまちへ向かう、これからの取り組みにご期待ください。





横須賀市
Yokosuka City

